

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● E-mail: ga-tpc@ginza.co.jp

● このNEWSLETTERは、銀座通連合会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています●

銀座街づくりワークショップの作業がすすんでいます。町会や銀座通連合会などのみなさんへのヒヤリングをおこない、銀座らしさや銀座フィルターについてのお考えを聞いたり話し合う一方、銀座にはどんな空間のルール

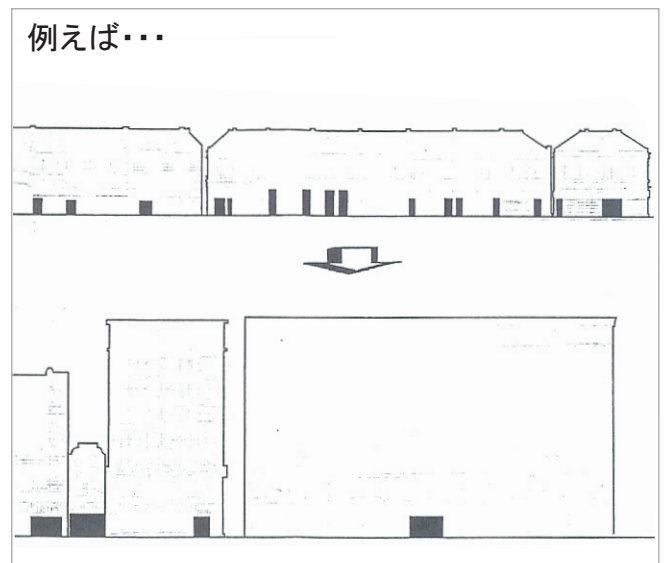
があるのか、銀座らしい空間とはどんなものか、ということ建物を通り・地域などの視点から、いくつかの方法で調査しています。12月をめどに、最初の報告をまとめる予定です。

銀座街づくりワークショップ・中間報告

—— 去る9月24日、銀座街づくり会議評議会において、これまでのワークショップの中間報告がなされました。蓑原敬さん、小林博人さん、岡本哲志さん、倉田直道さんの専門家グループは、大きく二つの方向で、銀座の空間とはどんなものかを検討しています。

一つは、銀座らしい空間構造とはどんなものかを分析する作業。私たちが日頃見ている建物、通り、空、道といったものの構成を詳細に調べ、データベース化しながら、街路の断面構成（街路と建物の高さ、看板の関係など）、ファサードにおける開口部（街路にたいしてどのくらい出入り口が開いているか）、ファサードにおける表情（建物を構成する素材・色・配置、親しみやすさ）などを分析しています。

興味深いのは開口部の調査。年代ごとに、あるブロックの中で人が建物にアプローチできる出入り口（＝アクセスビリティー）を見ていくと、だんだん粗になっていっていることがわかりました。建物が集約化されてお店への出入り口が少なくなっているのです。それだけではなく、次の通りに抜けられる路地空間もなくなっていきます。つまり、通りからその建物に入ったり、通りから次の通りに行く回遊性がかなり減っていているという事実がわかってきました。一つの大きな建物があるよりも、いくつかの建物が集まっているという構成の方がにぎわいが生まれやすく、多様・多層なものが混在したところからにぎわいが生まれてくるということもわかってきました。この調査は将来の銀座の回遊性、銀ブラを守っていくために、建物の出入り口をどう作るかということのヒントになります。



もう一つは、地区計画銀座ルールを銀座のみんなが理解できるようにするための作業。パンフレットを読んでも私たちには専門的すぎてわかりにくいので、できるだけそれを解きほぐして理解を深められるようにし、問題点がどんなものなのかを考えなおすための資料づくりです。

もう一方で、さまざまな銀座の人たちと話し合い、銀座らしさや銀座の将来像についてのヒヤリングも続けています。これまで銀座通連合会、銀実会、銀座3丁目支部会の方々などに、お話をうかがう機会をいただきました。その他にも、各町会、通り会などで、調査の内容を知りたい、意見を言いたいというご要望があればお申し出ください。

建築や都市計画を学ぶ学生さんたちが、銀座の各通りを歩き回り、あちこちに出没し調査しています。来年春には、学生さんたちの考える「銀座」が提案されます。さて、どんな「銀座」になるのでしょうか？楽しみます。

東京大学、明治大学、工学院大学、そして東京理科大学などの授業の課題に、「銀座」を採り上げていただきました。

銀座 ストリート・スケーリングプログラム